
會 報

岡山醫學會第355回通常會

同會は本月17日午後4時より岡山醫科大學第1講堂に於て開會す生沼庶務主幹開會を報じ直ちに左の講演に移る。

産婦人科に於ける「レントゲン」診断の
進歩に就て

八木日出雄君

「レントゲン」診断は近時醫學の各分野に於て顯著なる進歩を遂げつつあり、これ一は「レ」線發生装置の改善と、一は優秀なる造影剤の發見とに因るものにして、吾が産科、婦人科兩方面に於ても、今日其の應用範圍は急激に擴大され、日常診療上缺くべからざるものとなれり。産科に於ける應用を例に就て見るに、妊娠子宮内に於ける胎兒の撮影に成功せる結果、胎兒の數、位置、姿勢、畸形、胎兒生死、骨盤と兒頭との調和、分娩時の胎兒娩出機轉等に關する各種の寫眞を得て、或は新知見を示し、或は従來の學説を訂正し得たる所甚だ多し。又婦人科的方面に於ては、1925年 Henger (ア

ルゼンチン) が Lipiodol を初めて妊娠子宮内に注入して其の造影を得て以來、子宮、輸卵管等の内生殖器の寫眞を撮影する事に成功し、近年これが應用により、子宮の畸形、發育狀態、腫瘍、子宮腔内異物の存否、輸卵管の生理的竝に病的狀態、不妊症の診断、骨盤内腫瘍の鑑別診断等各種の診断に利用せらるるに至れり。猶ほ膀胱、腎盂、輸尿管の造影法も進歩發達したれば産婦人科に於ける「レ」線利用の途は近年著しく開けたりと謂ひ得べし。

此等各事項に亙りて、撮影の技術及び造影法の詳細を説明し、「レ」線寫眞を供覽して具體的解説を試みたり。猶ほ最後に専門醫として、「レ」線の如き補助診断法の進歩に伴ひ、在來の觸診による婦人科的固有診察法の練磨が動もすれば閉却さるる傾あるを指摘し、この點に戒心すべきを述べたり。

右終りて午後5時30分閉會したり。

◎岡山醫學會第356回通常會

同會は來6月15日午後4時より岡山醫科大學第1講堂に於て開會の筈なり